

をさまらす法花經の五字

をさまるといふか答云爾也金ににたる

石あり又實の金あり珠ににたる石あり

實の珠あり愚者は金ににたる石を金と

をもひ珠ににたる石を珠とをもうとの

僻案の故に又金に似石と實の金と珠に

似石と實の珠と勝劣をあらそう世間の

人々は何をという事をしらざる故に或は多人のい

かたにつきて一人の實義をすて或は上人の

言につきて少人の實義をすつ或は威徳の

者いうきにつきて無威の者の實義をすつ

佛は依法不依人といましめ給とも末代の諸人

は依人不依法となりぬ佛は依了義經

不依了義經とはせいし給とも濁世の衆生は

依不了義經不依了義經の者となりぬ

あらあら世間の法門を案するに花嚴宗

と申宗は花嚴經を本として一切經をすへ

たり法相宗三論宗等も皆我依經を

本として諸經を

止觀十卷には内外典を打釋して法花經

となしてつくれる文なり教相を以定めは法

花已前の諸經の談にして一佛の一切の佛の

功德をは備さる事なり法花經にをいても

迹門にすらなをしこれゆるさす何況

爾前の經々をやされは爾前の諸經に

一佛一切佛の義をとけなば或は平等意趣と

心へ或は法身のかたをとけると心へ或は爾

前の圓教の融通の心としるへきを遠くは

一代聖教の先後をもわきまへす近は天

台妙樂の釋をもしらざる者とも但一文一句

計をとりて先後もしらすいう事なり阿彌

陀の三字に一切の諸佛を攝事は深法花經

の所説一切の諸法を三諦とどかるれば法

花經の行者のためには阿彌陀の三字一

切の佛ををさむへし法花經も信せぬ權經

一、所在 静岡縣田方郡錦田村玉澤 妙法華寺

一、系年 御在島以前之御筆 假名交り草筆文(草稿歟)

一、筆跡 楮紙

一、紙質 二紙一幅

一、員數 上段 堅九寸二分 巾 一尺三寸五分

一、寸法 下段 堅九寸二分 巾 一尺一寸四分

一、行文 上段 十八行半 下段 十六行

一、遺文 御遺文集ニ未ダ見當ラズ

一、發見 宗寶調査ノ硯 (藤田教宏誌)

本として韻藻

スレ 哉 琳宗三篇 宗等も皆與 韵藻

と申 宗が 非 韻藻を本として一 韻藻をすへ

るはと 世間の 哉門を案するに 非 韻宗

不 殆て 韻藻 不 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

不 殆て 韻藻と 殆て 韻藻の 香より 韻

(藤田 燦 宏 誌)

宗 寶 臨 查 入 師

麟 畫 文 集 二 未 又 見 當 々

上 蜀 十 八 行 半 下 蜀 十 六 行

上 蜀 登 式 十 二 位 中 一 只 一 七 四 位

上 蜀 登 式 十 七 二 位 中 一 只 三 七 五 位

二 珠 一 韻 辭 海

則 各 交 互 草 律 文 (草 辭 類)

崎 井 島 思 南 文 崎 律

籍 岡 藤 田 式 雅 藤 田 林 正 野 燦 哉 華 寺

四の 轉ささちびへ 哉 非 韻と 韻 哉 韻 韻

非 韻の 行 香の 式 ぬに 同 韻 韻の 三 半一

の 韻 第一 韻の 韻 哉 三 篇と なる 外 哉

韻の 三 半一 韻の 韻 哉 哉 韻 哉 韻 哉

情 哉と して 哉 哉と して 哉 哉と して 哉 哉

合 哉 樂の 轉ささちびへ 哉 哉と して 哉 哉

一 升 聖 哉の 轉ささちびへ 哉 哉と して 哉 哉

前 の 圓 哉の 轉ささちびへ 哉 哉と して 哉 哉

心へ 哉 哉の 轉ささちびへ 哉 哉と して 哉 哉

一 轉一 韻 哉の 轉ささちびへ 哉 哉と して 哉 哉

韻 哉の 轉ささちびへ 哉 哉と して 哉 哉

移 門 哉と して 哉 哉と して 哉 哉と して 哉 哉

心 哉と して 哉 哉と して 哉 哉と して 哉 哉

非 韻 哉の 轉ささちびへ 哉 哉と して 哉 哉

と して 哉 哉と して 哉 哉と して 哉 哉

止 韻 十 卷 以 内 代 典 哉 哉 哉 哉 哉 哉 哉 哉

Handwritten Japanese text, likely a letter or document, written in vertical columns. The text is dense and appears to be a formal or semi-formal communication. The characters are in cursive (sōsho) style. The document is oriented vertically on the page.